

牧草地のムギダニ防除技術

福島県畜産試験場 草地飼料部・平成10年度試験成績概要

1 部門名 飼料作物－草地－病虫害防除 分類コード08-01-23000000

2 要 旨

牧草地におけるムギダニの薬剤防除は、スミチオン乳剤が使用できるが、その防除適期が判然としていないため、秋季から春季にかけて時期を変えて散布を行い、ムギダニの生息密度の変化を調査し防除適期について検討した。

その結果、秋季(11月下旬)の散布では、根雪期間になるまで若干の生息密度が増加し、翌春には散布前の生息密度の水準まで上昇した。これは、散布後に休眠卵が孵化し生息密度が回復することを示唆するものである。

春季の散布は、融雪後牧草地が乾燥する3月中旬から概ね2週間ずつ時期をずらして散布を繰り返したところ、3月30日以降の防除効果が大きく、散布後2週間の生息密度の増加は認められなかった。3月中旬は気温が10℃以下でムギダニの活動は低調で、牧草の葉上での吸汁活動は少なかった。これに対して、3月下旬以降は気温18～19℃となり、葉上に多くのムギダニが群れて吸汁活動している様子が認められた。

以上の結果から、ムギダニの防除は活動がより活発となる3月下旬頃(平均気温が15℃以上となる時期)が適期と判断された。このことで、牧草の被害とムギダニの産卵数を減少させる対応ができると考えられる。